

EMBRICE  
arti e mestiere  
UEMON IKEDA

エンブリチェ  
美術工房ギャラリー  
池田うえもん

Post- strutture: linee, fili, labirinti di Uemon Ikeda

「ポスト・構造、池田うえもんの線/糸と迷路」展

a cura di Simonetta Lux Carlo Severati

キュレーション：シモネッタ・ルックス、カルロ・セヴェラーティ

con un filmato di Carlo Tomassi "L'infanzia di Tatsuo"

映画短編「たつおの幼年時代」カルロ・トマッシ編集

un'intervista a Ikeda a cura di Emma Tagliacollo ビデオ・インタビュー

「池田うえもん」キュレーション：エッマ・タリアッコロ

8・23 Giugno 2012 2012年6月8日～23日

inaugurazione: venerdì 8 giugno ore 18,00 オープニング：6月8日金曜日 18時

EMBRICE arti e mestiere

via delle Sette Chiese 78 Roma

tel.e fax: +39 06 64521396

www.embrace.com

ufficio stampa Studio Marta Bianchi 338 5633278

GianLuca De Laurentiis 340 7625453

Orario d'apertura dal lunedì al sabato: 18,00 - 20,00

池田うえもん [池田達夫、1952兵庫県神戸市生まれ]は、今回の個展の機会をもって、ビジュアル・スペースをテーマに考えを深める。過去にも発表した方法で、デッサンから、実際にエンブリチェ画廊の三次元空間に赤い糸、毛糸/絹糸の糸によって実現する。

野外で撮影されたカルロ・トマッシの短編「たつおの幼年時代」が画廊で映写される [オープニング]二次元の世界のデッサン、赤い糸による迷路の中にデッサンとスクリーン映像が折り重なる。観察者は、三つのパーフォーマー・状況の中で、リアル日常性の世界、デッサンから街へ、また両方を打ち消すかのように「作者とその文脈の一致」を池田うえもんは、運命付けるかのように提起している。

池田は、自己とその現実空間 [展示された彼の図面、ボルゲーゼ公園の池]彼の測量の「単位」は全く精神的なものであり、日本やイタリアでの作法の日常性の次元を基にし、同時に無視しながら、新たに彼の寡黙性に注意を向ける。あたかも彼の作品には、儀式的な作法との関連が継続的に必要であるかのようにである。彼のアポリアのみが、彼の継続した不安定性を検証している。

変化と矛盾は

あらゆる解釈作業を困難にし、かつ疑惑を抱かせる。それは、この世界における偶然を基にした「出会い」の持つ基礎的な虚弱性に負っている。池田うえもんは、彼の糸を人間の高さにローマのボルゲーゼの池の公園に設けた。

ある不注意な通行人が、躓いた。あの細い毛糸/絹糸が与える躓きである。

その通行人は自分は詩人で俳句の句集の本を出版したばかりだと告げた。

C.S.

協賛・後援

日本文化会館、日伊基金、ローマ国立大学建築学科ヴィッラ・ジュリア、マルタ・ビアンキ美術工房—デザイン・コミュニケーション。



FACOLTA DI ARCHITETTURA  
SAPIENZA  
UNIVERSITA DI ROMA

